

行政視察等報告書

平成30年11月15日

米子市議会議長様

会派名 よなご・未来
代表者氏名 西川章三
提出者氏名 矢倉強



下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	矢倉 強
期 日	平成30年11月8日から平成30年11月9日まで
〔概要〕（年月日・場所・内容） 11月8日 大阪府大阪市 「塾代助成事業について」 「校長経営戦略予算について」 11月9日 京都府綾部市 「空き家活用定住支援事業について」	
〔所感〕 別紙のとおり	
経 費	旅費総額 29,440円

行政視察報告

平成30年11月15日 会派 よなご・未来

11月8日 木 大阪市役所行政視察

- (視察項目) 1 塾代助成事業について
- 2 学校長経営戦略予算について

1 塾代助成事業については、大阪市が全国に先駆け実施した事業であり、私の
思いと重なるところもあり調査することに致しました。

本事業の目的と内容は、子育て世代の経済的負担を軽減するとともに、子供たち
の学力や学習意欲、個性や才能を伸ばす機会を提供するため、一定の所得要件を
設け、市内在住の中学生約5割を対象に学習塾や家庭教師、文化、スポーツ教室
などの学校外教育にかかる費用を月額一万円を上限に助成するものです。

勿論、貧困家庭の子供たちにも才能を伸ばす機会を提供しようとの考えも主たる
目的の一つであります。

私の子供時代は、学習塾や習いごと、スポーツがしたくてもかなわない貧困家庭
の子供もけっして少なくなく、さみしい思いをしていた姿を思い起こします。

さて、本事業はまず平成24年から貧困家庭の多い西成区から実施されました。
実施対象者は、生活保護家庭などの子供約1000人を対象に行われ平成25
年度からは、市内全体の生活保護家庭などの約19000人を対象に実施され、
平成27年度からは、市内全体の低所得者家庭の約31500人を対象に実施
されております。支払い方法は、生活費に流用されないよう直接カードで支払
うよう工夫されております。

主な使い道は、学習塾が約9割をしめています。応募者数は対象者の約6割と
成っております。交通費は支給されておられません。

保護者は、63、2パーセントが非常に満足しているとの調査結果が出ています。

2 校長経営戦略予算については、似通った事業は全国的に実施されておりますが、
大阪市がより踏み込んだ事業に取り組んでいることから調査することにいたしま
した。米子市におきましても思いやり予算として各校に配分され文房具代や
小動物の飼育など多岐にわたり使用されています。

これはそもそも、米子市においては、私自身が市議当選間もない約27年前ころ
提案したものであります。当時、米子市内の学校現場では、ボールペン一つ

コピー一つするにも難儀しており、自由に学校現場で使える予算がないとの声が高まっておりました。当時、境港市では、元教師の安田市長のきもいりで思いやり予算を計上して評価を高めていたことから提案に踏み切ったものであります。ただ、米子市においては、現在も当時から進歩がなく、本来の目的である教育現場の校長に権限を大幅に委ねる事によって、校長にその学校にあった特色をより活かした学校経営を他校と競いながら責任をもって取り組んでもらいたいとの考えには沿ったものには成っていない歯がゆい現状があります。

要は、校長自身に校長の仕事とは、何なのか 学校経営とは何なのか理解が進んでいないのではないかと考えています。庭の草を取るのも、床磨きも教育者の一つの姿かもしれませんがやるせない思いが致します。既に、昭和40年代からPTAでは学校現場の期待に応えられないとの声が高まり、国の肝いりで地域住民を巻き込んだ学校評議員制度が導入されましたが、校長がこれを使いこなせず学校経営に活かさきれていない米子市の現状があります。

大阪市では、学校活性化条例を制定し本腰を入れて取り組んでいます。

予算配分については、基本配布は、学校長が学校協議会で検討し、申請したものが各校に配分されます。

特筆すべきは、加算配布で、これは各校で特色ある事業計画を練った者にだけ配布されることから大きな刺激材料となっています。

そもそも学校現場は、他者と比較されたり、競争を避けるきらいがあり教職員のスキルアップがはかれないなやみがありました。そこで一般企業の社員を校長に抜てきしたのも大阪市が最初でした。

加算配分からもれた校長からは、選考への不満が出るようですが、これも地域保護者、生徒の目を気にしての事であり活性化の証とみています。

ただ、橋下市長の退任後、これが押し通せるか心配です。

11月9日 金 綾部市役所行政視察

〔視察項目〕 1 空き家活用定住支援事業 について

現在、米子市においては、約1万室をこえる空室があり、今後は、急速に進む高齢化と核家族化があいまって空室が急増するものとみられます。

米子市の地方創生は、これ以上空き家を殖やさないこと、空き家に市外から移住してきた若者に定住してもらうことと同じ一つのくくりのなかで取り組む必要があると考え綾部市を訪問することと致しました。

綾部市は、日本海の海産物などを京の都に運ぶ重要なルートとして古くから栄えた

街であります。しかし昭和25年には、約54000人だった人口は、平成30年には約33000人にまで減少しています。

そこで綾部市が取り組んできているのが、さまざまな施策を盛り込んだ空き家活用定住支援事業であります。この事業を成功させること、即ち地方創生に直結させることでもあるのであります。綾部市は、この10年で208世帯、514人の若者の定住をはかりました。内訳は、よくある都会から空気のきれいな山あいの街で農業や林業をしてのんびり暮らすという人もいますがそれは屈指の人で、大半は工業団地に就職した人たちであります。空き家対策、若者の定住促進、地方創生は即ち、安定して働ける職場が有ることです。綾部は、JRの舞鶴と福知山を結ぶ拠点に位置し、2本の高速道路が走る交通の要衝に位置していることが、工業団地が進出してきた要因だと思えます。そして綾部市が取り組んできた事業で注目すべきは、都市計画区域の線引廃止であります。米子市でも改革が急がれる代表的な事業であります。 以上

行政視察行程 会派：よなご・未来（矢倉 強 1名）

月 日	行 程	宿 泊 先
11/8 (木)	<p>9:22 米子駅 11:38 岡山駅 12:38 新大阪駅 12:56 淀屋橋駅 13:05 (昼食) 淀屋橋駅 * * 大阪市役所 JR 特急やくも 10号 JR 新幹線のぞみ 20号 OsakaMetro 御堂筋線・なかもず行 徒歩</p> <p>大阪市行政視察 午後2時00分から午後4時00分まで 【議会事務局】 ☎ : 06-6208-8674</p> <p>【調査項目】 ①塾代助成事業について ②校長経営戦略予算について</p> <p>16:20 淀屋橋駅 16:23 梅田駅 * * 大阪駅 16:45 京都駅 17:14 17:28 18:42 綾部駅 OsakaMetro 御堂筋線・千里中央行 徒歩 JR 京都線新快速・野洲行 JR きのさき 13号・豊岡行</p>	アールイン綾部 ☎0773-40-5000
11/9 (金)	<p>綾部市行政視察 午前9時00分から午前10時45分まで 【議会事務局】 ☎ : 0773-42-4305</p> <p>【調査項目】 空き家活用定住支援事業について</p> <p>10:59 タクシー 綾部駅 12:07 京都駅 13:27 岡山駅 14:27 15:04 17:21 米子駅 JR 特急はしだて 2号・京都市行 JR 新幹線のぞみ 27号 JR 特急やくも 17号</p>	

